

予備合宿(霧と運動靴の頃)

1年 栗山 宏幸

F 7月13日、全曜日、朝から電車にゆられ、昼前に中軽井沢という駅に着いた。すぐ近くに浅間山が見える。思えば、浅間山を見たのは、中一の時務動教室というもので小渚に来た時以来だ。あのときも、朝方、霧の中でラジオ体操をした覚えがある。六年後の今日を暗示するようには。

(その日の朝、愛用の黒い運動靴をゆいてきた。)

その日の午後の走りでは、はやくもバテがきていた。明日の二十メートルを超えるトライはとて無理なような気がした。そして、夜、雨が降り出した。このとき、幸運なことに、テントの裏人中で寝させてもらい、あまり雨に濡れなかった。隣に寝た志波二人は、上からたれてきて、濡れてしまった。(二日目バンガローで寝たとき、濡れたシュラフでは駄目だから、わざわざ金を払ってフトンを借りてきたほど。)しかし、運動靴はどしどし濡れに変わった。

明朝、小雨の中、走りが開始された。まずは線路のあるところまで行こうということだ。そして、ある無人駅に着いた。そのとき、心は線路の続く方へと人で行っていた。しかし、予想に反して？天気は回復し、再び走り始めた。そして、昼、草津に着いた。そのときは、もうその日の全精力をつぎこいた。

ような気がした。そして、その日はもうそのまま温泉につかって疲れをいやしたかった。しかし、これからは本番なのである。パンとキャラムルを買って、アタックが始まった。

(その頃、運動靴は「そんご底の舞でたい靴はサイクリングにあかんでえ。」と言われ、いじけていた。)

三浦さんと先輩の許に、長い長い坂道をのぼっていた。途中から深い深い霧がかかってくる。前も上も下もろくに見えない状態。車のヘッドライトで、これからどのくらいの坂道かを知り、失望していたまのた。そして、ゆくりと進んでいった。1700米という標識があった。また、400米もある。たまたま、そして何處となく休憩のあと、いきなり2000米という標識が目についた。うれしかった。生きる希望がわいてきた。しかし、その頃はもう、50米進んでがうんといい状態では、や、とふことで休憩所にはこりこり人だ。



頂上までもう少しある。たが、ついに茨峠という標識を目のあたりには見ることができた。頂上は霧で何も見えなかつた。たが、よか、た、よか。たという感じであつた。そして、そう快で下り、下の谷に歩くと、太陽がさんさんと輝き、運動靴も濡れた体をまたためることができた。その日はよくねむれた。

三日目、長野まで走り 善光寺も見学した。(善光寺は自分達が東京に帰ったあと、火事になった。うちのりょうなものをか行、たからかな?) そのとき、いろいろ字ものを見聞して、楽しかったが、山はもうこりこりという気分だった。

運動靴は死んだ。雨と霧の中での旅に耐えられず、たかたろうか。1年ちょっとの短い生涯を終えた。今度は東京湾の波に洗われて、流島の霧を恨みながら、静かに横たわって、いさかもしれない。

